



Michigan Newsletter

March 2025

No. 6

ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. 「天皇誕生日レセプション」で近江の地酒ジャック
2. 滋賀は日本茶発祥の地！ひな祭りイベントでの PR

ページ 1 ~ 3

教育交流

1. 州内で日本語を学ぶ高校生に滋賀をアピール！

ページ 3 ~ 4

ミシガントピック

1. 州内唯一の日本語新聞に、ミシガン滋賀コラムははじめました！

ページ 4

経済交流

1. 「天皇誕生日レセプション」で近江の地酒ジャック

3月12日、在デトロイト総領事館の主催の天皇誕生日レセプションが開かれ、総領事館管轄のミシガン州およびオハイオ州から、州政府関係者、企業関係者、姉妹交流関係者等、約150名が参加しました。

こういったレセプションでは、日本の様々な産地の地酒が振舞われるのが通例ですが、今回は総領事の取り計らいで、日本酒は滋賀の地酒だけが提供されました。

さらに、乾杯のドリンクも近江の地酒に統一していただき、乾杯の音頭も取らせてもらいました。「近江の地酒でもてなし、その普及を促進する条例」を例に出し、滋賀県では県外からの旅行者や滞在者に近江の地酒でもてなすようにしていることを紹介し、ミシガンとオハイオの皆さんと近江の地酒で乾杯させてもらいたい、と呼びかけました。



ずらっとならんだミシガンで買える近江の地酒



ポスターで、州内に販路を広げている2酒蔵の詳しい情報も紹介。

地酒のPRブースも設置させてもらい、ミシガン州で流通している5種類の近江の地酒を精米歩合順に並べ、参加者に飲み比べてもらいました。一番人気があったのは、甘くて果実のような吟醸香がある、笑四季酒造のWORLD PEACEでした。どれも米と米麴のみを使用した純米酒にもかかわらず、香りが豊かであることに驚かれる方も多かったです。前任駐在員の力で、ミシガン州で新たに地酒3銘柄が流通するようになり、早一年。地酒の詳しい情報を伝えたり、取り扱いのある飲食店を紹介したり、引き続き魅力を伝えていきたいと思います。

2. 滋賀は日本茶発祥の地！ひな祭りイベントでの PR

3月2日、デトロイト美術館で開かれたデトロイト日本商工会主催の日本文化発信イベントにて、滋賀県の紹介および近江の茶の提供を行ないました。ミシガン州立大学連合日本センターでの留学経験者の力も借りて、来場者に効果的に滋賀をアピールしました。

近江の茶については、滋賀県茶業会議所から提供いただいた琵琶湖かぶせの水出し茶の試飲を実施しました。用意した700名分の試飲(約30リットル)を10時から17時までのイベント実施期間中に継続して提供しました。甘み感じる、さっぱりとしている、と大変好評でした。帰りに再度立ち寄ってくれる人もいました。

特に若い世代からどこで買えるか聞かれることも多く、ウェブサイトを案内し、後日実際に注文も入ったようです。イベントは家族連れが多く、お茶を飲みなれている子供、飲みなれていない子供の反応が全然違いました。普段からよく緑茶を飲んでいる、という家族も多く驚きました。

これまでから滋賀の観光や物産の案内を幅広く行っていますが、今回、信楽焼を取り上げてPRに挑戦しました。県庁イノベーション推進課から提供いただいた明山陶業の信楽焼ひな人形の動画を放映し、ひなまつのイベントにピッタリとの反応をもらいました。興味を持った方に信楽焼の小さな豆たぬきを配布したのですが、大人にはラッキーチャームとして、子供には愛らしい顔の指人形として大人気でした。



左 会場前の様子

右 会場後の様子

その他、ブースに来られた方の中には、今年京都、大阪、神戸等を旅行する予定の方や、日本に頻繁に渡航しており穴場の観光地を探すビジネスマンなどもあり、滋賀の観光パンフレットは大人気でした。

また、全米で売り出し中の滋賀県でのサマーキャンプも積極的に広報し、何組かがかなり興味を持ってくれ、後日旅行会社に問い合わせも入るなど手ごたえがありました。

同日、美術館内では書道パフォーマンスや琴の演奏など様々なイベントが行われていましたが、その中の一つ、答礼人形物語の読み聞かせイベントに立ち寄ってみました。ノバイ市図書館のスタッフによる紙芝居風のナレーションで物語が進み、たくさんの家族連れが鑑賞していました。

この物語は、1927 年、アメリカから約 13000 体の青い目の人形がひな祭りにあわせて日本の学校に贈られ、そのお礼として、日本から日本人形がクリスマスにあわせてアメリカへ贈られたという史実に基づいています。当時、アメリカでは反日運動や排日移民法など、さまざまな日米間の問題が生じており、米国人宣教師が、日米両国の子供たちがお互いを理解し友情を結ぶことが大切だと考え、米国の子の親の協力を得て人形を日本に贈ったそうです。これを受けた日本は、実業家の渋沢栄一が中心となって日本全国の子供たちからの一銭の寄付が集められ、58 体の市松人形が「答礼人形」として米国に贈られたそうです。

物語を鑑賞しながら、前任駐在員から、「駐在員の仕事は平和のための仕事だよ」、と聞いたことを思い出しました。県民の生活に密着した、不可欠な仕事は県庁の中に山のようにあり、それと比べれば姉妹交流なんてあってもなくてもいいように思えます。私は、平和について語れるほどのものは持ち合わせていませんが、平和は水や電気と同じように、それがなければ、学校へ行ったり、仕事をしたりといった当たり前のことができないという意味で、何よりのインフラだと思います。

こちらで実際に活動している中で、姉妹交流の仕事は平和への種まきかな、と感じています。お互いの文化に触れる機会が少しでもあれば、偏見や先入観を取り払って見方を変え、自分から他者を知らうとするきっかけになると思います。この答礼人形のように、そうした市民レベルの草の根の交流は、国同士の関係が歴史の中で変わることがあっても、変わらない絆や友情となって、地下水のように流れ、平和を支えていくのではないのでしょうか。



[Storytelling: Friendship Dolls Story]

(Story by: 山崎博、Illustrated by: 渡辺美野)

教育交流

1. 州内で日本語を学ぶ高校生に滋賀をアピール！



ミシガン日本語教師会主催により開催されたミシガン州内の日本語を学ぶ高校生が集まるクイズイベントの会場にて滋賀県の PR を行いました。日本語を学ぶ高校生を対象に、滋賀の観光情報の紹介や、信楽焼カップやたぬきの置物を展示した信楽焼の紹介を行いました。

立命館守山高校と教育提携に関する覚書を締結しているトロイ高校、アテンス高校の生徒やその親もブースに多数来場しており、6 月に守山市を研修で訪問予定の生徒もあり、滋賀のマップや観光情報を喜んで持ち帰ってくれました。

信楽焼のたぬきに興味を持った学生には、地図を見せ、陶芸で有名な地域があることを伝え、ぜひ行ってみたいという声も聞かれました。先日のデトロイト美術館でのひな祭りイベントで豆たぬきをもらって子供が喜んだ、と声をかけてくれる家族もいました。



イベント中に、州内で活発に活動している多数の日本語教員と情報交換することもできました。デトロイトにある、イメージ教育(目標とする外国語を1教科として学ぶのではなく、その外国語を使って他の教科を学ぶバイリンガル育成教育法)を実践している小学校の日本語の先生からは、滋賀県の小学校と交流できないかという話をいただきました。今後のコラボレーションが楽しみです。



ミシガンピック

1 州内唯一の日本語新聞に、ミシガン滋賀コラムはじめました！

州内に住む日本人ならよく知っている、Japan ニュース倶楽部という新聞があります。私も赴任したばかりのころ、図書館やレストランに無料で設置してあるこの日本語の新聞を発見。アルファベットの生活に疲れた目に鮮やかに写り、持ち帰ってコーヒーを飲みながら読むのが楽しみになっていました。

そんな新聞の紙面に、滋賀県とミシガンに関するコラム掲載のアイデアが新聞の編集者と前任駐在員の間で持ち上がり、今月より実際に掲載を開始することになりました。

記事は、広くミシガン州在住の日本人に対し、滋賀県とミシガン州の交流について紹介することで、滋賀県を身近に感じてもらうとともに、活動に対する協力者や理解者を増やすことを目的にしています。

今後、単なる観光地案内でなく、彦根のミシガン州立大学連合日本センターで学ぶ、ミシガン州からの留学生が見た滋賀県の魅力の紹介記事も計画中です。家でくつろぎながら、ミシガンと滋賀のことを知ってもらい、姉妹関係に興味を持ち、日本に帰った際、滋賀県を訪れるきっかけになればうれしいです。

【Japan ニュース倶楽部】

ミシガン州(デトロイト大都市圏)とオハイオ州(クリーブランド地域)に住む日本人向けの日本語無料新聞。紙媒体およびウェブ版があり、紙媒体は2500部を発行し、飲食店、大学や NPO 関係等に幅広く送付されています。過去から、近江の茶や地酒の PR 活動など、駐在員の活動も取り上げてもらっています。

公式 HP(日本語) <https://www.japannewsclub.com/>